

## 令和4年度第2回多治見市地域自立支援協議会会議議事録

### 1. 日時

令和5年3月20日(月) 13:30~14:30

### 2. 場所

パロー文化ホール(多治見市文化会館) 2階第3練習室

### 3. 議題

(1)障がい者虐待の現状について

(2)障がい者就労の現状について

(3)令和4年度多治見市地域自立支援協議会<全体会議>における情報提供

(4)地域自立支援協議会専門部会活動報告

(5)意見交換 多治見市での日中サービス支援型グループホームの普及拡大について

### 4. 公開又は非公開の別

公開

### 5. 出席者

(1)委員(50音順 敬称略)

浅井 陽子(知的障がい者団体多治見地区手をつなぐ親の会)(副会長)

浅野 保敬(多治見公共職業安定所 職業相談部門雇用指導官)

岩本 眞知子(多治見市民生児童委員協議会障がい児(者)福祉部会長)

大竹 陽平(東濃特別支援学校長)

笠原 佐知子(はなの木苑 相談支援専門員)

加藤 健史(東濃障がい者就業・生活支援センター サテライト t 主任職場  
定着支援担当)

木村 泰宏(陶技学園相談支援センター 主任相談支援専門員)

早瀬 亜紀(社会福祉法人みらい理事長)

藤木 誠(相談支援事業所ホーリークロスセンター長)

堀 冴(東濃成年後見センター 相談員)

水野 富夫(会長)(岐阜県身体障害者福祉協会 多治見支部)

宮澤 由紀子(岐阜県東濃保健所 係長)

吉村 佳代(東濃子ども相談センター)

※欠席委員：鈴木邦典委員

(2)事務局

福祉課：大山克則課長、山田康則課長代理、大澤昌代主査

(3)傍聴人

1名

## 6. 議事概要

○事務局	<p>定刻になったので開催する。</p> <p>今年度初めての出席となる委員に自己紹介いただきたい。</p> <p>→早瀬委員、岩本委員、大竹委員が自己紹介</p> <p>議事録は委員名を伏せて市ホームページに掲載する。</p> <p>以後の進行は、会長にお願いしたい。</p>
○会長	<p>議題(1)障がい者虐待の現状について、事務局から説明を願う。</p>
○事務局	<p>最初に補足させていただきたい。昨年度までは国、県の数字を挙げていたがこれが年度末ギリギリにしかでず、空欄となっていた。今回からは多治見市の数字のみとしている。また、昨年度までは事案概要を資料に載せていたが、個人情報の関係から資料掲載はなしとして、事務局から大まかな概要を口頭で述べることとする。→新規案件3件について説明。</p> <p>件数につき、昨年度11件で今年度8件。ただ、もともとの件数が少ないため、これをもって多い少ないをいうものではないと考えている。</p>
○会長	<p>何か質問、意見はあるか。→特に意見等なし。</p> <p>では、次に議題(2)障がい者就労の現状について、事務局からの説明を願う。</p>
○事務局	<p>3つ項目があり、ひとつ目の就労系自立支援サービスについては福祉課から、ふたつ目の障がい者就労の現状については〇〇委員から、みっつ目の障害者就業・生活支援センター事業については〇〇委員からそれぞれ説明させていただく。</p> <p>まずひとつ目のサービス関係についてだが、B型が昨年度比18人増えているものの、横ばいプラスアルファ程度となっている。実際の事務に当たっている者としてはもっと増えているような印象を受けていたがそれ程でもなかった。</p>
○委員	<p>昨年度比較で登録者数は100人ほど増えている。手帳種別としては、多くが精神保健福祉手帳となっている。ハローワーク多治見管内の有効求人倍数を参考にお知らせしたい。2月(1月分)は、2.38倍となっている。1人に対して2.38人分の仕事がありますよ、ということになるが、実際はここから本人の希望ややれる、やれないというような条件が入ってくる。なお、2.38倍というのは高い数字ではあるものの、求職の届は多治見に出</p>

	ているものの、就業場所は他県であったり、多治見管内ではなかったりということがあることに留意が必要である。
○委員	多治見市は、知的障害の方の一般就業が他と比べ多い。これは東濃特別支援学校を卒業された方が登録し、学校の方が支援にかかわっているなどの理由がる。
○会長	次に議題(3)令和4年度多治見市地域自立支援協議会<全体会議>における情報提供について、○○委員から説明願う。
○委員	地域生活支援拠点に関し、以前も説明会を行ったが改めて今年度10月31日説明会を行ったところである。これに関し、今年に入り土岐市において緊急時受入れを行ったが、これが東濃5市における初のケースである。 課題としては、前回にも挙げたが、基幹相談業務につき他の業務とともにやっているため、負担が大きいということがある。
○会長	何か質問、意見はあるか。→特に意見等なし。 では、次に(4)地域自立支援協議会専門部会活動報告について、事務局からの説明を願う。
○事務局	第2回目となる相談支援事業所部会を今月の13日に、第3回となる精神障がい支援連絡部会を1月13日に、それぞれ開催したところである。
○委員	相談支援事業所部会の補足をさせていただく。意見交換するなかで、ひとつ変わったなと感じたこととして、以前は本人が高齢になると即、施設という感じだったが、最近は高齢になってもご自宅におられるということがある。これはひとつには、本人のご両親が高齢になっても、まだ元気で支援を続けられているということがあるように思う。ただ、今後、両親の高齢化が更に進んだときにどうするかということを考えなくてはならない。ただ、これは国として考えていくことだろうと思う。 また、精神障がい者について、以前は入院し余生を送るという感じだったものが地域でみていくという流れになってきている。ただ、こちらも高齢になった際に日中での居場所がなかなかないということがある。日中サービス支援型のグループホームという施設形態もあるが、多治見市にはまだない。 長生きできるのはいいことではあるが、それにより今までにない問題が出てきているのかなと感じている。 あと、先程、人材不足という話があったが、今、ヘルパーが不足してきている。また、就労継続事業所について今は不足とい

	う状況ではないが、今後、不足していくかもしれないということがある。
○事務局	精神障がい支援連絡部会について説明させていただく。前回に引き続き、プロセスシートの作成を進めている。構成要素の項目につき、6つの市の取組等の案を挙げている。 この件については、○○委員から補足いただく。
○委員	5市で同様にプロセスシートの作成に取り組んでいただいている。圏域での取組として、医療との連携や関係者の資質向上などが挙げられている。 来年度は圏域として、資質向上と普及啓発に取り組んでいこうと考えている。
○会長	何か質問、意見はあるか。→特に意見等なし。 では、(5)意見交換 多治見市での日中サービス支援型グループホームの普及拡大について、○○委員から提案趣旨等説明いただきたい。
○委員	県内で日中サービス支援型グループホームは9つあるが、この辺りにはまだない。今後、多治見市も日中サービス支援型を進めていくことになるのかなどについて気になるところである提案したところである。
○委員	県内施設を訪問したことがある。施設の方によると、国の方向が変わってくるなかで、あまり利益が上がらないとのことだった。今後、施設がどんどんできていく可能性は低いのではないか。あと、県外に施設は結構あり、強度行動障害対応を謳っている施設もあるが、夜間の対応となると、経費的な面からやはり一人体制となってしまう。自分もニーズはあると思うが、なかなか進んでいってないようである。これは、あくまで個人的な意見である。
○委員	先程の地域生活支援拠点のなかで出てきた、「体験の場」とはどのようなものか。
○委員	こちらは本格的な取組は今後になるが、他県の例でいくと、主に一人暮らし、アパート暮らしを始める方用にグループホームの一室を充てるとか、自治体によっては、アパートの一室を借りて、一人暮らし体験部屋として用意しているところもある。また、ひきこもりの方が気軽にB型事業所を体験できるような仕組みをつくったりなど、各自治体においていろいろな取組がなされている。基本的には、親亡きあとを見据えて、というところ

	ころがある。
○委員	重度の方を対象にしている感じになるのか。
○委員	先程、土岐市の事例を紹介させていただいたが、重度の方だと、簡単に受入れ施設に入る、というのが難しい場合もある。まずは見学、体験を行うことが望ましい。対象者を把握、親が元気なうちに体験なりを行っていくことが必要である。
○委員	難しいかもしれないが、各個人、それぞれに対応いただくことを家族としては望む。
○委員	かつて強度障害障害を受けるとした施設に相談、問い合わせが集中したことがあり、ニーズはある。ただ、経営的な面や人材不足の理由などで施設ができていない状況である。一緒に考えていく必要がある。
○委員	そのために地域課題をこういう場で共有し、できることから取り組んでいくことが必要である。
○委員	現状、入所を希望し空きを待っている方が多いのか、グループホーム入所の希望が多いのか、その辺りの状況はどのようなか。
○委員	入所施設とグループホームの違いは何か、という質問が多い。包括型グループホームを運営する施設側からすると、日中サービス支援型は入所施設の小型版のように見ており、入所施設と何が違うのか、存在意義は何なのかと考えている。そのため、すぐに立ち上げるという話にならない。今は生活介護とグループホーム利用でその方の生活を支えていっている。ただ、保護者の方のニーズを教えてもらって、日中サービス支援型なりが本当に必要だということになれば、どこかが立ち上げないといけないね、という話になってくるのかなと思う。
○委員	保護者は、国が入所施設はもう増やさないよ、じゃあグループホームしかないね、というような認識に留まっていると思う。
○委員	あまり意味のないものはダメだが、入所施設や入院施設は一定数、必要だと考えている。
○委員	勉強会なりが開催されているので、保護者の方なども参加されるといいと思う。
○委員	県の研修に出た際、自閉症協会の方が強度行動障害への対応が難しく、施設からも断られる方もいるという旨を言われていた。自分の関わるケースでも、施設見学すらできない場合がある。県のほうもここを何とか対応していく必要があり、自分たちも保護者の話を聞いていく必要があると思っている。

	<p>日中サービス支援型については、精神の方だと、例えば十年程前に地域以降した方が今は70代なりになっており、介護保険のサービスを使えるかという障害特性からなかなか利用は難しく、ポツカリ空いてしまったところを埋めるために必要なのかなと感じている。このように保護者の方と話す機会を持つことは大事だと考えている。</p>
○事務局	<p>日中サービス支援型については、施設が立ち上がった場合はその運営なりについて、この協議会で評価を行うこととなる。また、運用として施設の立上りの際には、都度、協議会に情報提供なりさせていただくこととしているので、ご承知おき願う。</p>
○会長	<p>以上をもって、会議を終了することとする。</p>

以上